

サステナブル酪農への挑戦

株式会社ファームノートデーリィプラットフォーム
佐竹 啓雅

ファームノートグループビジョン

Farmnote

「生きる」を、つなぐ。

私たちは技術革新を通じて、持続可能な地球の豊かさに貢献します。

全ての生命には「ありのままに自由に生きたい」「より良く成長したい」という本質があります。

私たちは、生命の本質を尊重し、気候変動や食料問題、人権問題など、

「人・動物・自然」から「ありのままに生きる」を奪う社会課題に真摯に向き合い、

技術革新を通じて社会課題を解決することで、地球の持続可能性を高め

全ての生命の「自由と豊かさ」に貢献し続けます。

事業ビジョン

地球と調和した、サステナブルな食糧生産の実現



人
全ての人の安全保障を実現



動物
お互いの利益を考慮した関わりあい



自然
持続可能な資源とあるがままの存在

人は、全ては「つながり」あい、お互いが影響を及ぼし合っていることへの認識を強める必要がある。



人が安心して過ごせなければ調和は始まらない。
まずは食糧生産の課題解決から進める。

グループビジョン

事業ビジョン

プロダクト・ソリューション事業

デジタル化を通じてオペレーション標準化と生産性向上を支援

ハイオペレーション

ハイゲノム



Farmnote Cloud
クラウド牛群管理システム



Farmnote Gene
育種改良自動化プラットフォーム



Farmnote Color
牛向けウェアラブルデバイス



ジェネティクスサービス
受精卵販売プラットフォーム



Farmnote Compass
酪農向け経営分析レポート



和牛生産牧場
和牛受精卵の生産技術研究



コンサルティング
獣医師チームによる生産性向上支援

主にリカーリング収益

主要KPI

センサー・クラウド利用料 / 1顧客当たり製品利用数 / 顧客数 / 獣医師数 / ARPU / 解約率

インテグレーション事業

高生産性の実証と生産ノウハウの蓄積。働きやすい牧場を増やす

酪農生産

運営サポート

土地と建物を借り受け、人とオペレーションを導入する、アセットライトで牧場経営できる新しいモデル

オペレーション構築・マネジメントを受託し、生産性改善を進めるモデル



中標津牧場

北海道中標津町
飼育養頭数150頭
生乳生産1,400t
和牛子牛生産 70頭



希望牧場

北海道中標津
飼育養頭数778頭
生乳生産4,400t



第二牧場

飼育養頭数260頭
生乳生産1,900t
肉用牛子牛生産 100頭



伸託（しんたく）

北海道別海町
飼育養頭数140頭
繁殖和牛頭数80頭
哺育育成頭数60頭

リカーリング収益と副産物販売収益

主要KPI

生乳販売代金・子牛販売代金 / コンサルテーションフィー / 牧場数 / 和牛出生頭数 / 搾乳牛頭数 / 飼料費割合

○ 3つの問い

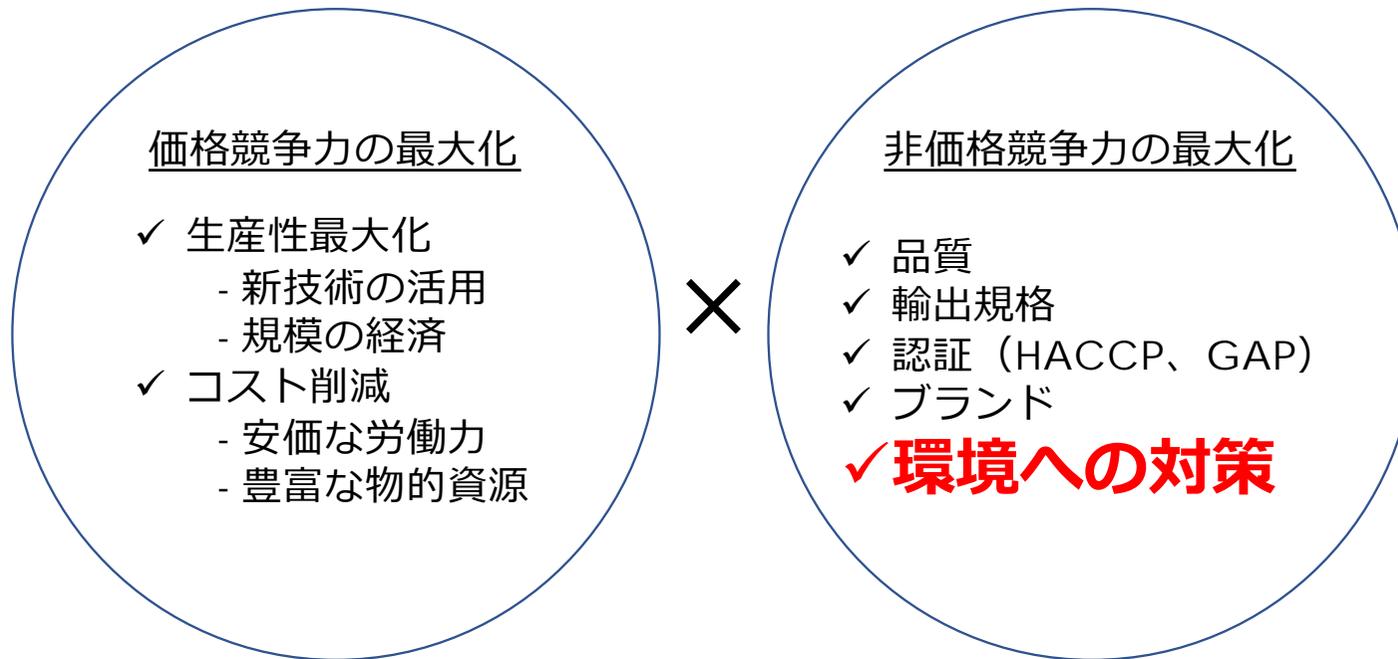
1.農業って何か？

2.日本の酪農・畜産業界の目指すべき方向性は何か？

3.サステナブル酪農って何か？

○ サステナブル酪農とは

日本の酪農・畜産業界が国際競争力を持つこと。
→つまり、価格競争力×非価格競争力の最大化である



○ 本日のテーマ：サステナブル酪農への挑戦



乳牛のふん尿処理方法の変更におけるJ-クレジット化の取組開始。温室効果ガスの排出削減に貢献

2022.09.21 [お知らせ](#) [プレスリリース](#)

株式会社ファームノートホールディングスは、酪農経営子会社である株式会社ファームノートデーリプラットフォーム（以下、「ファームノートDP」）を通じて、丸紅株式会社（以下、「丸紅」）と、畜産分野での温室効果ガス（以下、「GHG」）排出削減量のクレジット化を協働します。温暖化ガス排出の削減量などを国が認証し事業者間で売買する制度「J-クレジット」に、「家畜排せつ物管理方法の変更（方法論番号：AG-002）」が9月16日に登録（以下、「本件」）されました。なお、家畜排せつ物管理方法によるJ-クレジット制度への登録は日本初となります（当社調べ）。

Marubeni

お問い合わせ 日本語 English 会社情報 ニュースリリース 事業紹介 IR 投資家情報 サステナビリティ 企業広告・動画 採用情報 丸紅経済研究所

畜産業界におけるJ-クレジット制度への登録について

2022/09/21
丸紅株式会社

丸紅株式会社（以下、「丸紅」）は、株式会社ファームノートデーリプラットフォーム（以下、「ファームノートDP」）と、畜産分野での温室効果ガス（以下、「GHG」）排出削減量のクレジット化で協働し、9月16日、家畜排せつ物管理方法の変更（*1）において日本初となるGHG排出削減プロジェクトがJ-クレジット制度（*2）に登録されました。

地球温暖化が進む中、日本の平均気温は世界平均の2倍近いスピードで上昇し（*3）、畜産業界においても、乳量の減少や餌となる作物の収穫量の減少など、気温上昇が生産環境に影響を及ぼしています。また、国内における家畜排せつ物由来のGHGは、農林水産業全体のGHG排出量の約12%を占めており（*4）、排出量の削減が課題となっています。

今回登録されたGHG排出削減プロジェクトは、従来、貯留し畑に散布していた乳牛のふん尿を、ファームノートDPでは固液分離機を導入し強制発酵（*5）することでGHG削減を行うものです。固体分の管理方法を「貯留」から、GHG排出係数が小さく、より環境負荷の低い「強制発酵」に変更することで、年間175トン（22年9月時点）相当のCO2を削減することができます。GHG排出量の算定やJ-クレジットの申請・販売に関する丸紅のノウハウを活かし、環境や家畜に配慮した牧場運営を行うファームノートDPと協業することにより今回のプロジェクトが実現しました。



国内でのJ-クレジットの需要が高まる中、丸紅は、J-クレジットの販売だけでなく、J-クレジット制度のインセンティブとして、J-クレジットの販売収益を事業者に還元することで、排せつ物処理設備の導入を後押しし、脱炭素化を推進していきます。丸紅は、気候変動長期ビジョンを策定し、2050年までにグループでのGHG排出をネットゼロとすることを目指し、グリーン戦略の一環として畜産分野での脱炭素化の取り組みに力を入れています。今後も畜産分野でのDX化とグローバルで培った脱炭素化のノウハウを活かし、農家と家畜、環境に優しい持続可能な畜産業の実現に貢献していきます。

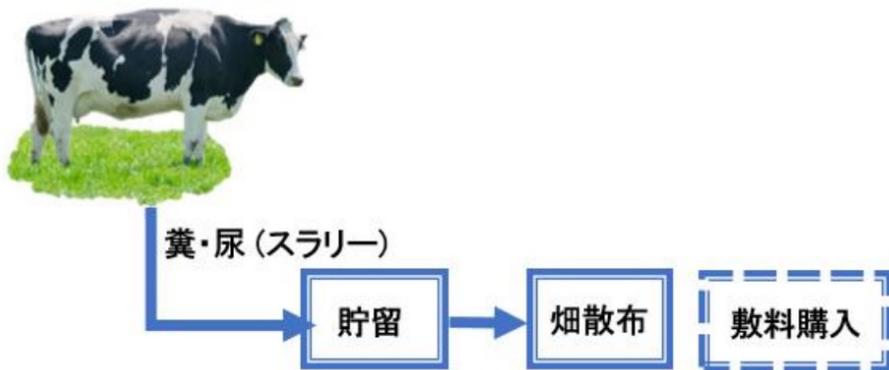
(*1) 家畜排せつ物管理方法の変更：方法論番号AG-002を指す。

(*2) J-クレジット制度：省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるGHG等の排出削減量や、適切な森林管理によるGHG等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制

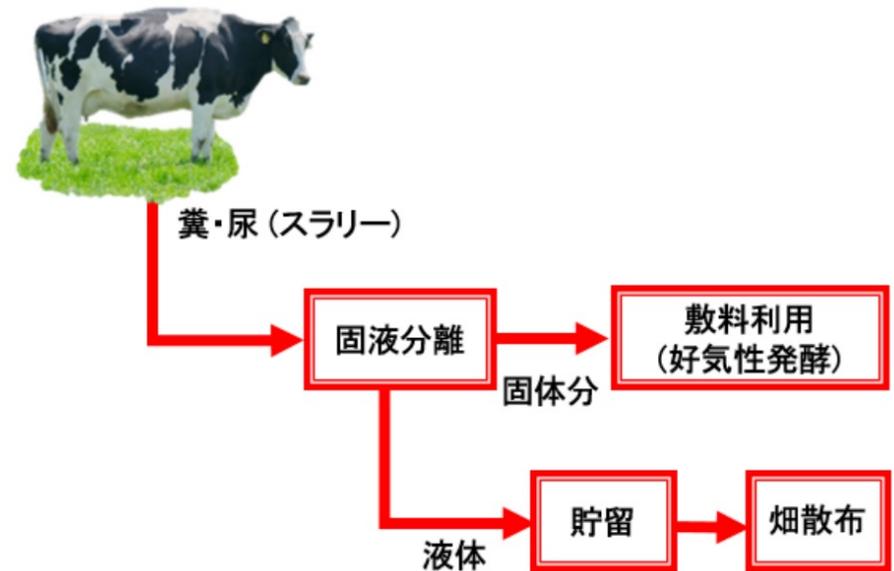
○ プロジェクト内容

牧場に固液分離機を導入し、乳牛のふん尿を固体と液体に分離後、固体を敷料として再利用することで温暖化効果ガス発生量を削減するもの。固体分の管理方法を「貯留」から「強制発酵」に変更することで年間175トン相当のCO2を削減します。

【Before】

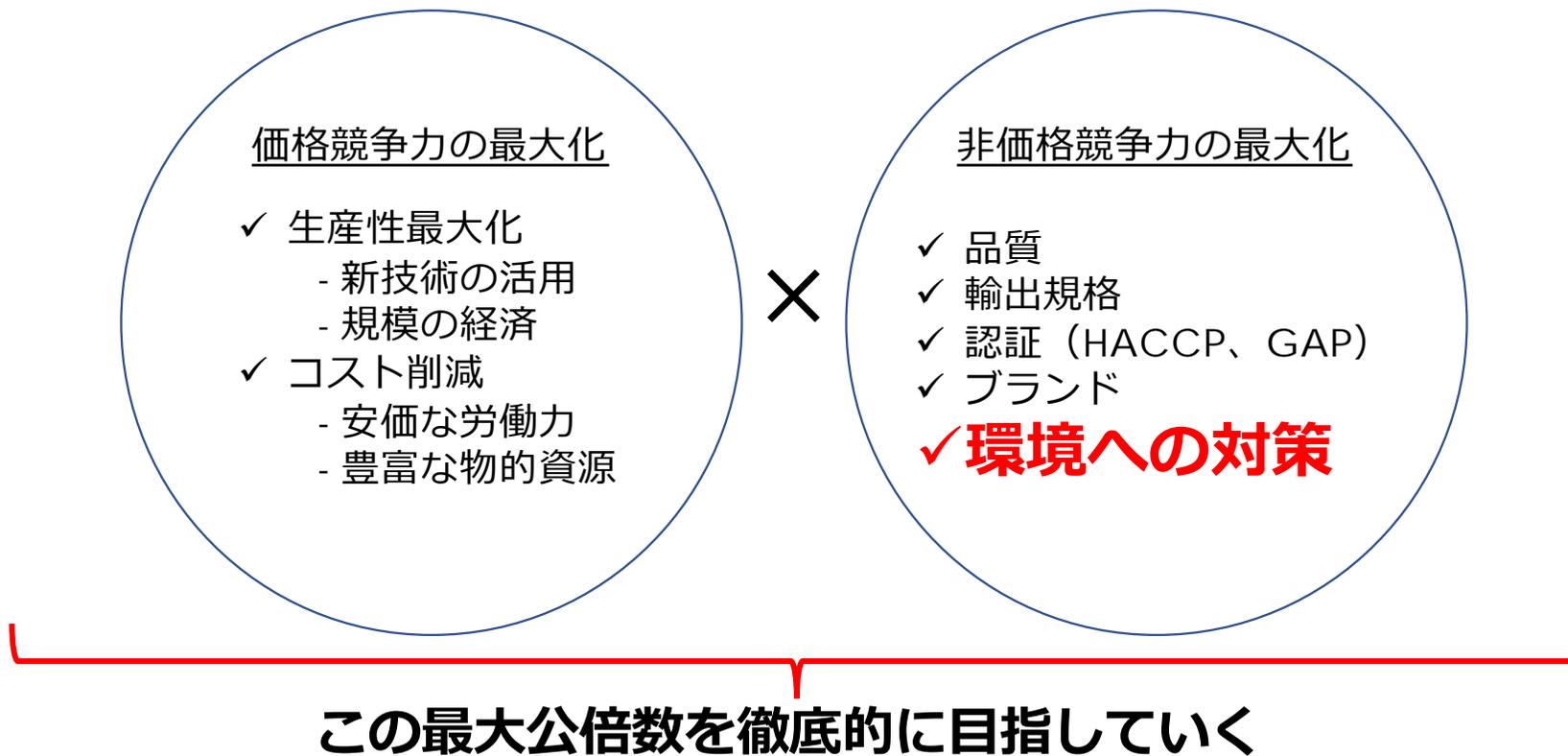


【After】



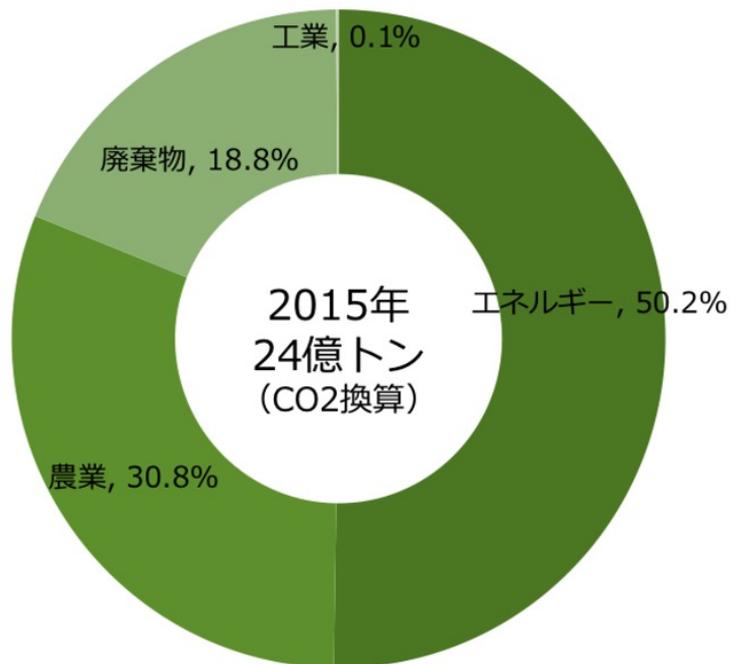
○ 日本の酪農・畜産業界の目指すべき方向性

日本の酪農・畜産業界が国際競争力を持つこと。
→つまり、価格競争力×非価格競争力の最大化である



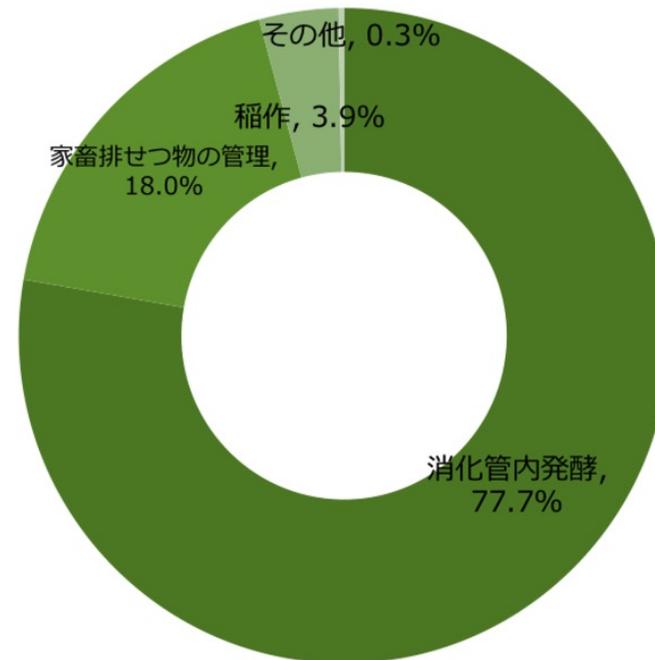
○ 最後に：更なる挑戦

世界※の分野別メタン発生源



UNFCCC Green house gas Inventory Data 2015のデータ より作成
※附属書I国（京都議定書で削減目標をもつ国）

世界※のメタン発生農業分野内訳



UNFCCC Green house gas Inventory Data 2015のデータ より作成
※附属書I国（京都議定書で削減目標をもつ国）

https://sugu-kan.com/world_source_of_methaneより抜粋

ファームノートグループビジョン

Farmnote

「生きる」を、つなぐ。

私たちは技術革新を通じて、持続可能な地球の豊かさに貢献します。

全ての生命には「ありのままに自由に生きたい」「より良く成長したい」という本質があります。

私たちは、生命の本質を尊重し、気候変動や食料問題、人権問題など、

「人・動物・自然」から「ありのままに生きる」を奪う社会課題に真摯に向き合い、

技術革新を通じて社会課題を解決することで、地球の持続可能性を高め

全ての生命の「自由と豊かさ」に貢献し続けます。